

# エクリプス90計画

編集部

日経新聞や日食情報BBSで小さなニュースになっていますので、すでにご存じの方も多いと思いますが、今年の日食に関して「エクリプス90」という計画があります。これは、超音速旅客機コンコルドを使って、皆既日食のTV生中継をしようというものです。

この計画は、イギリス・アメリカの民間企業数社と、イギリス宇宙協会の数名のメンバーによって企画されました。計画の概要は次のようなものです。

コンコルド2機をチャーターし、レニングラードのプルコボ空港から飛び立たせます。1番機は現地時刻4時49分(世界時0時49分)に、2番機はその10分後に出発します。2機は北海を越えてコラ半島上空で皆既帯に入り、カニン半島の北端からノバヤゼムリャ島へと飛行しながら月の本影がやってくるのを待ちます。

後方を高度約46,000フィートで飛行している2番機は、世界時の2時ごろ、東経約54度付近で本影に追いつかれます。この近辺では、地上で観測すると約1分54~55秒程度の皆既時間ですが、コンコルドは約35km/分で飛行するので、約2分40秒間の皆既を観測できます。

前方を高度約48,000フィートで飛行している1番機は、世界時の2時6分過ぎに、東経約70度付近で本影に追いつかれ、約3分20秒の皆既を観測します。

いずれの機でも、皆既中の太陽は進行方向から右約20度、高度約17~23度に見えます。そのためTVカメラは副操縦士席にセットされ、操縦室の窓を通して撮影されます。TV信号は、ノバヤゼムリャ島の南端とバールイ島の北端に臨時に設置された、専用地上ステーションに送られ、そこから通信衛星を介して生中継されます。

1973年6月30日のアフリカ日食の際にも、エールフランスの改造コンコルドを使って日食観測が行われました。このときには月の本影のスピードが遅かったため、約72分もの間皆既を観測することができました。今回は本影のスピードが早いため、上記のように2機あわせて6分しか観測できませんが、それでも地上の約3倍の時間コロナを見ることができます。1973年のときは、科学者が乗り込んで専門の観測を行いました。今回は主にTV中継が目的のようです。それにしても、コンコルドが通常の飛行コースをはずれてソ連領内を飛び、北極圏に専用の臨時中継施設が設置されるなど、これも近年のペレストロイカのおかげでしょうか。

さて、気になるのはTV生中継がどこで放送されるか、ということです。実は某社を通じて日本の放送局にも計画参加の誘いがあったのですが、残念ながら実現しませんでした。ただし、生中継ではなくニュースとして放映するということです。海外遠征しない方は当日の各局のニュースに注目して下さい。(もし、イギリス・アメリカ等の放送局も参加しないということになると、計画は潰れるかもしれません)